

# 理科の要点シリーズ・5年下・第11回～第15回 [問題]

氏名( )

(3の1)

- (001) 速さも向きも変わらない運動を( )運動という。
- (002) ふり子の周期は、ふり子の( )だけによって決まる。
- (003) ふり子の( )を( )倍にすると、ふり子の周期は3倍になる。
- (004) 物が燃えるための3条件  
…( )
- (005) ろうそくのほのおの一番外側を( )という。  
ろうが( )しているので、最も( )。
- (006) ろうそくのほのおの一番内側を( )という。  
ろうが( )になっている。最も( )。
- (007) (005)でも(006)でもない部分を( )といい、最も( )。  
その理由は( )。
- (008) ろうそくのほのおの中にわりばしを入れると( )の部分が黒くなる。
- (009) ろうそくのほのおの中にガラス棒を入れると( )の部分が黒くなる。
- (010) ろうそくのほのおの( )にガラス管を差し入れると、( )  
いけむりが出る。このけむりに火を近づけると( )。
- (011) 「燃える」というのは、はげしく( )と結びつくこと。
- (012) ろうが燃えると( )ができる。
- (013) アルコールが燃えると( )ができる。
- (014) 水素が燃えると( )ができる。
- (015) 一酸化炭素が燃えると( )ができる。
- (016) プロパンが燃えると( )ができる。
- (017) 木炭が燃えると( )ができる。
- (018) さとうが燃えると( )ができる。
- (019) でんぷんが燃えると( )ができる。
- (020) 赤リンが燃えると( )ができる。
- (021) いおうが燃えると( )ができる。
- (022) マグネシウムが燃えると( )という( )い物  
質になる。
- (023) 銅が燃えると( )という( )い物質になる。
- (024) 鉄は( )を出して燃え、( )という( )い物  
質になる。
- (025) ろうが燃えるときの状態の変化…( )
- (026) アルコールが燃えるときの状態の変化…( )
- (027) 木炭が燃えるときの状態の変化…( )
- (028) 鉄の( )さび…( )・( )が必要。内部までさびる。
- (029) 鉄の( )さび…( )・( )が必要。内部を守る。
- (030) 銅の青緑色のさびを( )という。有毒。

(3の2)

- (031) 木材に、( )を与えないようにして熱することを( ),  
あるいは( )という。次のようなものができる。  
・固体…( )。( )色。( )でできている。  
・液体…( )。( )色のどろどろした液。  
・液体…( )。( )色の( )性の液。  
・気体…( )。( )色。火を近づけると燃える。  
この実験のときには試験管の先を少し下げ理由…出てきた( )が  
熱している部分に流れて( )。
- (032) 土砂が積み重なってしまもように見えるような重なりを( )といい、  
( )や( )で見られる。
- (033) レキ・砂・どろのうち、河口近くの浅いところに積もるのは( )で、  
遠くまで運ばれて深いところに積もるのは( )。
- (034) 岩石には、海などで積もったA( )岩と、( )が冷  
えて固まったB( )岩に分かれる。
- (035) Aはふつう角が( )いるが、例外が( )岩。  
この岩石は、( )などが固まってできた岩石。
- (036) Aのうち、小石が固まったものが( )岩。  
砂が固まったものが( )岩、どろが固まったものがC( )岩。
- (037) Cがさらに固くなったものが( )岩。( )の材料。
- (038) Aのうち、生物の死がいがい積してできたのが( )岩。
- (039) ( )の死がいがい積してできたのが( )  
で、昔は( )として使われていた。
- (040) 地下水は( )のそうの上にとまりやすい。
- (041) 火山灰のつぶは、火山の( )側にたい積しやすい。その理由は、日本  
の上空に( )がふいているから。
- (042) レキ・砂・どろなどがとぎれることなくたい積している重なり方を、  
( )という。
- (043) ( )面があると、一度陸になったことがわかる。
- (044) 左右からの力を受けて地層が曲がることを( )という。  
( )山脈、( )山脈など。
- (045) 地層が大きな力を受けてくいちがいできたことを( )という。  
( )山脈、( )山脈、( )山脈など。
- (046) (045)のうち、これからも活動する可能性があるものを( )という。
- (047) 大昔の生物の死がいや生活のあとを、( )という。時代がわかる  
D( )と、かんきょうがわかる( )がある。
- (048) サンゴの化石があると、( )・( )・  
( )・( )だったことがわかる。
- (049) ホタテの化石があると、( )・( )だったことがわかる。
- (050) (047)のDとなる生物の条件  
…生存期間が( )。世界中に( )分布する。数が( )。

(3の3)

- (051) (047)のDのうちおもなもの(古い方から)  
…( )代の( )・( )。  
( )代の( )・( )。  
( )代の( )・( )。  
このうち、今から1億年前をふくむ時代は、( )代。
- (052) 今も活動を続けていたり、今から1万年以内にふん火したことがわかっている火山を( )といい、日本に( )あり、地球上には約( )ある。半数以上は( )に属する。
- (053) 深くて細長い海底を( )といい、( )の運動によってできる。それと平行に( )がある。
- (054) 地球の表面は( )というかたい岩の層。  
その下に( )がある。さらに真ん中には( )がある。
- (055) マグマは、温度が( )なほど、ねばりけが弱い。  
また、( )が( )いほど、ねばりけが弱い。
- (056) マグマが地表に出たものを( )という。
- (057) 火山ガス・火山灰などが山の斜面を流れ下る現象を( )という。
- (058) 火山の中央部が大きく落ちこんでできたものを( )という。
- (059) (034)のBで、地表近くで急に冷えてできた岩石を( )岩という。  
( )岩・( )岩・( )岩など。  
大きいつぶは( )い。
- (060) (034)のBで、地下深いところでゆっくり冷えてできた岩石を( )岩という。E( )岩・( )岩・( )岩など。大きいつぶは( )い。
- (061) (060)のEは、( )・( )・( )などの( )でできている。
- (062) 地震が発生した場所が( )、その真上の地表の場所が( )。
- (063) 地震の波には、速く伝わる( )波(秒速( )km)と、おそく伝わる( )波(秒速( )km)がある。
- (064) 地震のゆれのうち、はじめの小さなゆれを( )といい、あとの大きなゆれを( )という。
- (065) 地震そのものの大きさを表す単位が( )。1階級大きくなるごとに、地震の大きさは( )倍になる。
- (066) 岩石が空気や水などによってしん食されることを( )という。
- (067) ( )岩でできている土地では、( )地形が見られ、地下では( )が見られる。
- (068) おもに海水のしん食作用によってできる地形  
…( )・( )・( )
- (069) おもに海水のたい積作用によってできる地形  
…( )・( )・( )

## 理科の要点シリーズ・5年下・第11回～第15回 [解答]

(3の1)

- (001) 速さも向きも変わらない運動を( 等速直線 )運動という。
- (002) ふり子の周期は、ふり子の( 長さ )だけによって決まる。
- (003) ふり子の( 長さ )を( 9 )倍にすると、ふり子の周期は3倍になる。
- (004) 物が燃えるための3条件  
…( 燃える物・空気(酸素)・発火点以上の温度 )
- (005) ろうそくのほのおの一番外側を( 外えん )という。  
ろうが( 完全燃焼 )しているので、最も( 温度が高い )。
- (006) ろうそくのほのおの一番内側を( えん心 )という。  
ろうが( 気体 )になっている。最も( 温度が低い )。
- (007) (005)でも(006)でもない部分を( 内えん )といい、最も( 明るい )。  
その理由は( 炭素が熱せられて光っているから )。
- (008) ろうそくのほのおの中にわりばしを入れると( 外えん )の部分が黒くなる。
- (009) ろうそくのほのおの中にガラス棒を入れると( 内えん )の部分が黒くなる。
- (010) ろうそくのほのおの( えん心 )にガラス管を差し入れると、( 白 )  
いけむりが出る。このけむりに火を近づけると( 燃える )。
- (011) 「燃える」というのは、はげしく( 酸素 )と結びつくこと。
- (012) ろうが燃えると( 水と二酸化炭素 )ができる。
- (013) アルコールが燃えると( 水と二酸化炭素 )ができる。
- (014) 水素が燃えると( 水 )ができる。
- (015) 一酸化炭素が燃えると( 二酸化炭素 )ができる。
- (016) プロパンが燃えると( 水と二酸化炭素 )ができる。
- (017) 木炭が燃えると( 二酸化炭素 )ができる。
- (018) さとうが燃えると( 水と二酸化炭素 )ができる。
- (019) でんぷんが燃えると( 水と二酸化炭素 )ができる。
- (020) 赤リンが燃えると( 五酸化二リン )ができる。
- (021) いおうが燃えると( 二酸化いおう )ができる。
- (022) マグネシウムが燃えると( 酸化マグネシウム )という( 白 )い物質になる。
- (023) 銅が燃えると( 酸化銅 )という( 黒 )い物質になる。
- (024) 鉄は( 火花 )を出して燃え、( 酸化鉄 )という( 黒 )い物質になる。
- (025) ろうが燃えるときの状態の変化…( 固体→液体→気体 )
- (026) アルコールが燃えるときの状態の変化…( 液体→気体 )
- (027) 木炭が燃えるときの状態の変化…( 固体のまま )
- (028) 鉄の( 赤 )さび…( 酸素 )・( 水 )が必要。内部までさびる。
- (029) 鉄の( 黒 )さび…( 酸素 )・( 強熱 )が必要。内部を守る。
- (030) 銅の青緑色のさびを( ろくしょう )という。有毒。

(3の2)

- (031) 木材に、( 空気 )を与えないようにして熱することを( むし焼き )、あるいは( かん留 )という。次のようなものができる。
- ・固体…( 木炭 )。( 黒 )色。( 炭素 )でできている。
  - ・液体…( 木タール )。( 茶 )色のどろどろした液。
  - ・液体…( 木さく液 )。( 黄 )色の( 酸 )性の液。
  - ・気体…( 木ガス )。( 白 )色。火を近づけると燃える。
- この実験のときには試験管の先を少し下げ理由…出てきた( 液体 )が熱している部分に流れて( 試験管が割れるのを防ぐため )。
- (032) 土砂が積み重なってしまもように見えるような重なりを( 地層 )といい、( がけ )や( 切り通し )で見られる。
- (033) レキ・砂・どろのうち、河口近くの浅いところに積もるのは( レキ )で、遠くまで運ばれて深いところに積もるのは( どろ )。
- (034) 岩石には、海などで積もったA( たい積 )岩と、( マグマ )が冷えて固まったB( 火成 )岩に分かれる。
- (035) Aはふつう角が( 丸まって )いるが、例外が( ぎょうかい )岩。この岩石は、( 火山灰 )などが固まってできた岩石。
- (036) Aのうち、小石が固まったものが( レキ )岩。砂が固まったものが( 砂 )岩、どろが固まったものがC( デイ )岩。
- (037) Cがさらに固くなったものが( ねん板 )岩。( すずり )の材料。
- (038) Aのうち、生物の死がい( たい積 )してできたのが( せっかい )岩。
- (039) ( ホウサンチュウ )の死がい( たい積 )してできたのが( チャート )で、昔は( 火打ち石 )として使われていた。
- (040) 地下水は( ねん土 )のそうの上にとまりやすい。
- (041) 火山灰のつぶは、火山の( 東 )側にたい積しやすい。その理由は、日本の上空に( 偏西風 )がふいているから。
- (042) レキ・砂・どろなどがとぎれることなくたい積している重なり方を、( 整合 )という。
- (043) ( 不整合 )面があると、一度陸になったことがわかる。
- (044) 左右からの力を受けて地層が曲がることを( しゅう曲 )という。( ヒマラヤ )山脈、( アルプス )山脈など。
- (045) 地層が大きな力を受けてくいちがいができたことを( 断層 )という。( 赤石 )山脈、( 木曾 )山脈、( 飛騨 )山脈など。
- (046) (045)のうち、これからも活動する可能性があるものを( 活断層 )という。
- (047) 大昔の生物の死がいや生活のあとを、( 化石 )という。時代がわかるD( 示準化石 )と、かんきょうがわかる( 示相化石 )がある。
- (048) サンゴの化石があると、( あたたく )・( きれいな )・( 浅い )・( 海 )だったことがわかる。
- (049) ホタテの化石があると、( 冷たい )・( 海 )だったことがわかる。
- (050) (047)のDとなる生物の条件…生存期間が( 短い )。世界中に( 広く )分布する。数が( 多い )。

(3の3)

- (051) (047)のDのうちおもなもの(古い方から)  
…( 古生 )代の( サンヨウチュウ )・( フズリナ )。  
( 中生 )代の( キョウリュウ )・( アンモナイト )。  
( 新生 )代の( マンモス )・( ビカリア )。  
このうち、今から1億年前をふくむ時代は、( 中生 )代。
- (052) 今も活動を続けていたり、今から1万年以内にふん火したことがわかっている火山を( 活火山 )といい、日本に( 108 )あり、地球上には約( 800 )ある。半数以上は( 環太平洋火山帯 )に属する。
- (053) 深くて細長い海底を( 海溝 )といい、( プレート )の運動によってできる。それと平行に( 火山前線 )がある。
- (054) 地球の表面は( 地かく )というかたい岩の層。  
その下に( マントル )がある。さらに真ん中には( 核 )がある。
- (055) マグマは、温度が( 高温 )なほど、ねばりけが弱い。  
また、( 二酸化ケイ素 )が( 少な )いほど、ねばりけが弱い。
- (056) マグマが地表に出たものを( よう岩 )という。
- (057) 火山ガス・火山灰などが山の斜面を流れ下る現象を( 火さい流 )という。
- (058) 火山の中央部が大きく落ちこんでできたものを( カルデラ )という。
- (059) (034)のBで、地表近くで急に冷えてできた岩石を( 火山 )岩という。  
( りゅうもん )岩・( あんざん )岩・( げんぶ )岩など。  
大きいつぶは( 少な )い。
- (060) (034)のBで、地下深いところでゆっくり冷えてできた岩石を( 深成 )岩という。E( かこう )岩・( せんりょく )岩・( はんれい )岩など。大きいつぶは( 多 )い。
- (061) (060)のEは、( セキエイ )・( チョウ石 )・( 黒うんも )などの( 鉱物 )でできている。
- (062) 地震が発生した場所が( 震源 )、その真上の地表の場所が( 震央 )。
- (063) 地震の波には、速く伝わる( P )波(秒速( 8 )km)と、おそく伝わる( S )波(秒速( 4 )km)がある。
- (064) 地震のゆれのうち、はじめの小さなゆれを( 初期微動 )といい、あとの大きなゆれを( 主要動 )という。
- (065) 地震そのものの大きさを表す単位が( マグニチュード )。1階級大きくなるごとに、地震の大きさは( 32 )倍になる。
- (066) 岩石が空気や水などによってしん食されることを( 風化 )という。
- (067) ( せっかい )岩でできている土地では、( カルスト )地形が見られ、地下では( しょうにゅうどう )が見られる。
- (068) おもに海水のしん食作用によってできる地形  
…( 海食がい )・( 海食台 )・( 海食どう )
- (069) おもに海水のたい積作用によってできる地形  
…( 砂し )・( 砂す )・( 陸けい島 )